



基本計画について

公益社団法人
2025年日本国際博覧会協会

1. 基本計画とは

- 博覧会協会が、2025年の開催に必要な事業とその方針について、プロデューサーの意見を踏まえて策定した全体の計画。
- これに基づき、来年以降、様々な事業の実施計画の策定や具体的な取り組みを推進すると共に、企業・団体・自治体・市民団体等の参加形態を示すことにより、多様な参加を促進。

大阪・関西万博概要

名称：2025年日本国際博覧会（略称「大阪・関西万博」）

テーマ：いのち輝く未来社会のデザイン

サブテーマ：

Saving Lives（いのちを救う）、Empowering Lives（いのちに力を与える）、
Connecting Lives（いのちをつなぐ）

コンセプト：People's Living Lab（未来社会の実験場）

会場：夢洲(ゆめしま)（大阪市臨海部）

開催期間：2025年4月13日（日曜日）～10月13日（月曜日）

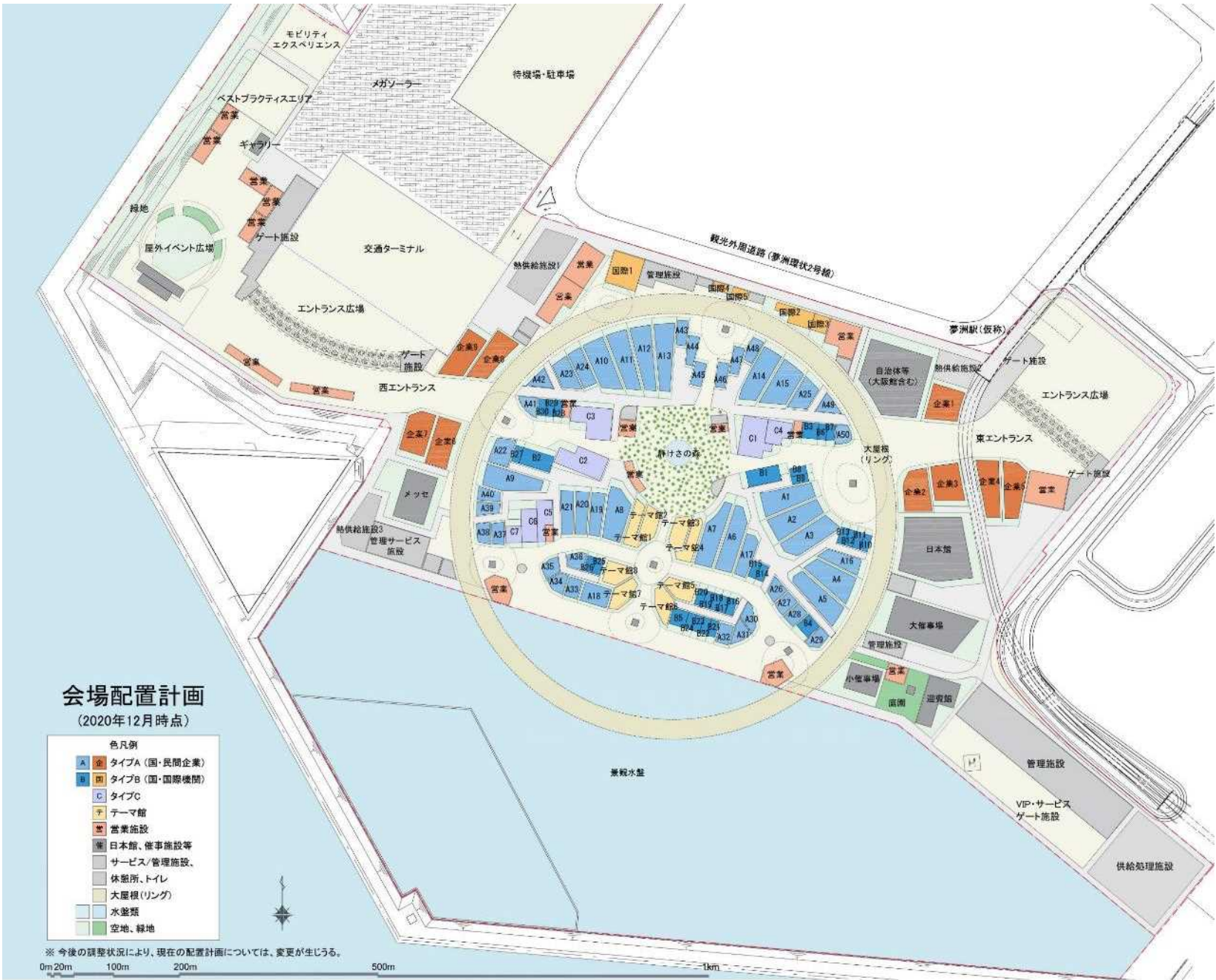
来場者数（想定）：約2,820万人

II. 会場デザイン

- 四方を海に囲まれた会場ロケーションを活かし、世界とつながる「海」と「空」に囲まれた万博として会場をデザイン。



II. 会場デザイン



Ⅲ. 未来社会のショーケース

- 会場を未来社会のショーケースに見立て、多彩な企業との共創を通じて未来社会を創造し、来場者に驚きと未来への展望を与える。

【未来社会ショーケース事業】

COVID-19を乗り越えた先の新時代の国家プロジェクトとして、2025年以降の未来を感じさせる次世代技術の実証と2025年にふさわしい先端技術の実装を目指す。

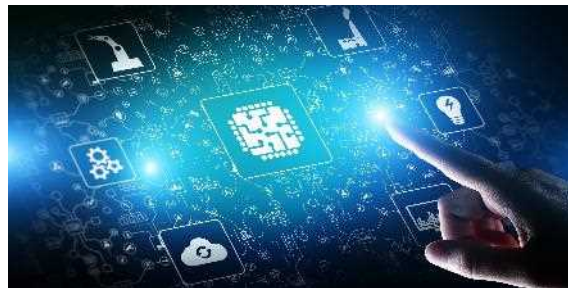
カーボンニュートラル



画像：Adobe Stock

- カーボンニュートラル、エネルギーを最適化する技術、水素エネルギー技術のショーケースとしての導入

デジタル



画像：Adobe Stock

- リアルとバーチャルを融合した未来のエンターテインメントの実現
- デジタル技術を活用した入場制度、来場者サービスの実施

モビリティ



- 次世代モビリティとしての利活用が期待される空飛ぶクルマにより来場者に新たな移動体験を提供

Ⅲ. 未来社会のショーケース

【バーチャル万博】

大阪・関西万博では、バーチャル技術を活用し、万博の魅力と発信力を高める「バーチャル万博」を行う。

	万博会場で行うプログラム (会期中実施)	万博会場とは別のプログラム (会期前から実施)
万博会場 (来場者向け)	会場内の展示や催事、 運営サービスをバーチャル技術 を用いて高度化	
オンライン会場 (オンライン 参加者向け)	会場外からアバターで 参加可能な万博会場を オンライン空間上に展開	会場の内容とは別の プログラムを オンライン空間上で展開

IV. テーマ実践（テーマ事業）

テーマ事業を担う8名のテーマ・プロデューサー



「いのちを知る」

福岡 伸一
生物学者 青山学院大学教授



「いのちを拡げる」

石黒 浩
大阪大学教授
ATR石黒特別研究所客員所長



「いのちを育む」

河森 正治
アニメーション監督、
メカニックデザイナー



「いのちを高める」

中島 さち子
音楽家、数学研究者、STEAM教育家



「いのちを守る」

河瀬 直美
映画監督



「いのちを磨く」

落合 陽一
メディアアーティスト



「いのちをつむぐ」

小山 薫堂
放送作家

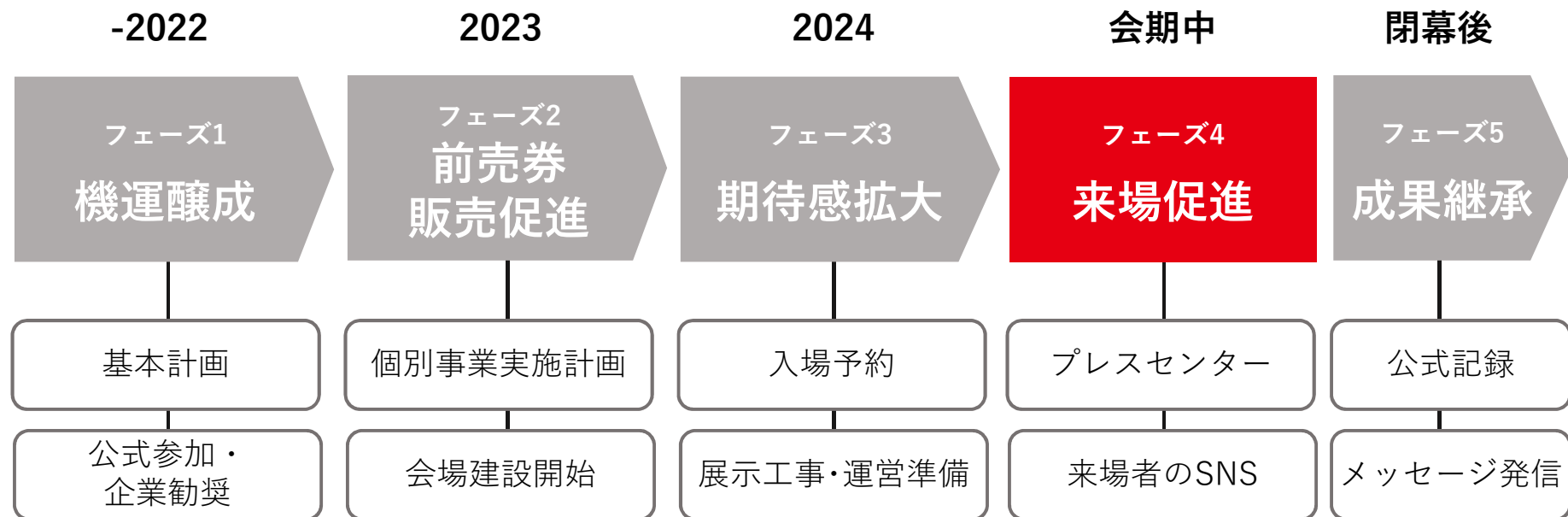


「いのちを響き合わせる」

宮田 裕章
慶応義塾大学教授

V. 広報プロモーション

- 国内外の様々な人々、国・自治体・企業・団体等の多様なステークホルダーに、①大阪・関西万博への興味や関心を持ち、②参加意欲を高めてもらい、③万博会場への出展、来場へと繋げていき、そして、④会期前及び会期中に創出されたレガシーを伝え、後世に継承していくため実施していく。



- 基本計画に基づき、以下のような各分野ごとの計画を、来年から1，2年かけて策定していく。

催事計画

劇場催事、広場等での祭り・パレード、光と映像を駆使した環境演出催事、メッセやギャラリー等での展示体験催事や未来型のエンターテイメントを行う。

入場制度

開会2年程度前から入場券販売開始を検討する。平準化を目的とした入場券の設定や、入場事前予約制度、電子チケット、パビリオン予約制度の導入を検討する。

営業活動

飲食施設においてはSDGsの目標としても掲げられている食品ロスの削減や、多様な来場者に適応したサービス等の導入、混雑日対応も考慮した施設構成とする。

防災・セキュリティ

会場内での災害を未然に防止し、万一災害が発生した場合には消防活動や避難誘導を円滑に行い、被害を最小限に抑えるための措置を講じる。

情報通信

情報セキュリティを確保し、安全で安心な万博の運営を実現する。万博参加体験を通じて得た情報はビッグデータとして管理、社会に還元する。

輸送

想定来場者数2,820万人の円滑な来場を実現するために、鉄道・道路・空路・海路等の既存交通インフラを最大限活用したアクセス手段を計画する。

持続可能性に配慮した運営

脱炭素社会の構築等にむけ、温室効果ガスの排出抑制、リサイクル・リユース・リサイクル (3R) などに取り組む。

リスク管理

早期からリスクを洗い出し、顕在化を抑制する。
ドバイ万博、東京2020オリンピック・パラリンピック等大規模イベントでの感染症対策を参考に必要な対策を講じる。

VII. 資金計画

収入（億円）		支出（億円）	
国庫補助金収入	617	会場建設費	
大阪府・大阪市補助金収入	617	施設整備費	1,180
民間資金等収入	617	基盤・インフラ整備費	670
計	1,850	計	1,850
入場券売上	702	運営費	809
その他収入	107		
計	809		
収入計	2,659	支出計	2,659

※端数処理のため合計額が一致しないことがある。

※会場建設費は、最大の額として1,850億円を計上している。